

Pioneer *sound.vision.soul*

パイオニアグループ
企業行動報告書
2007



「パイオニアグループ企業行動報告書2007」の 発行にあたって

この報告書は、パイオニア株式会社およびパイオニアグループの
考え方や活動をできるだけ分かりやすくお伝えすることを目的として、
グループ全体の活動をまとめたものです。

企業理念「より多くの人と、感動を」には、
私たちの商品・サービスが提供する、音と映像と情報を通じて、
人々とコミュニケーションすることで、多様性を重視しながら、
社内外の人々との連携、協働によって、より多くの人と手を結び、
さまざまな「感動」を共に分かち合いたいとの願いが
込められています。

この報告書を通じて、パイオニアグループの企業行動の全体像を知っていただき、
皆様との更なる対話を進めていきたいと考えています。



■ 対象範囲

対象期間：2007年3月期（2006年4月1日から2007年3月31日）を中心に、それ以前の取り組みと最近の活動も含めています。

対象組織：パイオニア株式会社およびパイオニアグループ連結子会社 119社

発行時期：2007年10月（次回：2008年8月を予定）

■ 関連する報告書

- 財務情報については、「有価証券報告書」「アニュアルレポート」などの報告書およびホームページ「投資家情報」で情報を開示しています。

<http://pioneer.jp/corp/ir/>

- 環境に関する報告については、「パイオニアグループ環境報告ハイライト2007」およびホームページで情報を開示しています。

<http://pioneer.jp/environment/>

- 技術開発・研究開発については、技術情報誌「Pioneer R&D」、学会発表およびホームページで情報を開示しています。

<http://pioneer.jp/crdl/>

■ 参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告書ガイドライン2003年度版」および「環境報告ガイドライン2007年版」
- GRI（Global Reporting Initiative）「GRIガイドライン2002」および「GRIガイドライン第3版（G3）」

■ 本報告書において

- 「パイオニア」とは、パイオニア株式会社を、「パイオニアグループ」とは、パイオニア株式会社を含むグループ全体を表します。

CONTENTS

目次

トップメッセージ	3
----------	---

パイオニアグループの企業行動	5
----------------	---

誠実な企業活動

コーポレート・ガバナンス	7
内部統制システムの充実・強化 リスクマネジメント	
コンプライアンスの徹底	9
知的財産、著作権の保護 情報セキュリティ	
品質保証の理念	11
お客様へのサポート・サービス	13

環境保護

環境経営の考え方と取り組み	15
地球温暖化防止と環境負荷の低減	17
製品ライフサイクルにおける環境配慮	19

従業員重視

人権の尊重	21
多様性の重視 女性活躍支援センターの設立 両立支援に関する取り組み 障がい者の雇用促進 メンタルヘルスケア	23
労働災害防止 オフサイトミーティングの推進	

社会との調和

社会貢献活動	25
社会とのコミュニケーション	28

組織の概要

CSRに関する社会的評価	29
業績・事業・会社概要	30

トップメッセージ

パイオニアグループは、2006年4月に、新たな企業ビジョン「すべての社員の、お客様視点に立ったプロ意識を結集し、イノベーションに挑戦し続ける企業」を掲げ、経営革新を推進してきました。そうした経営革新の活動を一層強化し、意識改革を促進させるために「THE VISION PIONEER」という冊子を国内外のグループ社員全員に配り、企業ビジョンの3つのキーワード「お客様視点」「プロ意識」「イノベーションに挑戦」を常に念頭に置きながら、自己満足に陥らず、お客様や社会の期待を洞察するプロとして、パイオニアらしい行動を通じて、企業理念「より多くの人と、感動を」の実現を目指しています。

創業者・松本望の思いであるこの企業理念は、「今までにない新しい商品をお届けして、お客様に心から喜んでいただく」ことです。私は、この「新市場の創造とお客様の笑顔」こそが、「パイオニアらしさ」の原点だと思います。世の中になく新しい価値を創り出し、私たちが大切にしようとするお客様にそれを納得して、喜んでもらえるかたちで提供させていただき、そうしたことの結果として企業として成長して行く。企業として売上規模の拡大を目指すことも当然ですが、私たちはまず、パイオニアらしい提案に共感していただけるお客様について深く理解することから始めなくてはならないと思います。そして共感してもらえるお客様を徐々に増やしていくこと、こうしたやり方にグループ社員全員で取り組んでいくことこそが、まさに「パイオニアらしさ」そのものであると確信しています。

パイオニアという会社は、新しい「気づき」や「ヒント」を上手く商品に落とし込んで価値を創ってきた会社です。そのような「気づき」や「ヒント」は、さまざまな人との対話から生まれてくるものです。そのため、私たち社内では“気楽に真面目な話をする場”として、部門や職制の垣根を越えたオフサイトミーティングが積極的に開かれています。



新商品商談会にて



「身体で聴こう音楽会」にて

技術・生産に携わっている社員も市場やお客様の現場に直接出向き、直接自分の目で見たり、自分の耳で話を聞くようにしています。また、製品だけでなく、さまざまな場で、パイオニアグループを取り巻く社会とのコミュニケーションを深めることが、大変重要なことと考えています。このたび、私たちはこの企業行動報告書というかたちで、パイオニアグループの年次の活動実績を開示させていただくことにしましたが、これも本音で語り合うコミュニケーションを大切にしていきたいという、私たちの思いの表れです。

企業の社会的責任に関連するさまざまな要求が高まるなか、パイオニアグループでは、連結ベースでのコーポレートガバナンスとコンプライアンスを果たしつつ、効率的に仕事を進めていくための内部統制の仕組みを整えてきました。2006年9月、本社内に内部統制委員会を設け、各事業部門、国内グループ会社、海外の地域統括会社にコーディネーターを置いて、グループ全体の内部統制システムの充実に取り組んでいます。また、製品安全、品質管理、環境保護、安全衛生、情報セキュリティなどさまざまな企業行動にある、パイオニアの社会的な存在を揺るがしかねないリスクについては、グループ企業行動憲章・グループ行動規範を頂点とするグループ規程をもとにした組織的な対応を図っています。

当社を取り巻く経営環境は、主要製品の価格競争が依然として続いており、非常に厳しいものとなっておりますが、企業ビジョン「すべての社員の、お客様視点に立ったプロ意識を結集し、イノベーションに挑戦し続ける企業」として、新しい価値を創造してお客様に提案し続けることで、企業理念「より多くの人と、感動を」の実現を目指しながら、社会的責任を果たす企業行動を実践していきます。

2007年9月 須藤民彦



プラズマディスプレイ製造ラインにて



総合研究所のオフサイトミーティングにて



海外のジャーナリストとのミーティングにて

パイオニアグループの企業行動

企業ビジョン体系

社会でのパイオニアのミッションと存在意義は、企業理念「より多くの人と、感動を」にこめられています。2006年4月に制定した新企業ビジョンには、現在のパイオニアの状況から、企業理念の実現に向かって、今後5～10年で目指すべき企業像をかかげています。企業ビジョンの実践が、最終的なゴール「より多くの人と、感動を」の実現につながっていきます。

企業理念

「より多くの人と、感動を」

企業ビジョン

**すべての社員の、お客様視点に立ったプロ意識を結集し、
イノベーションに挑戦し続ける企業**

私たちパイオニアは、「音と映像と情報」が持つ無限の可能性を究め、お客様一人ひとりの心に響く新しい感動を、提供し続ける企業でありたい。

そのために必要なこと、それは社員一人ひとりが
“気づき”を積み重ね、絶えず自分を“進化”させていくこと。

なぜなら、すべての社員が、今の自分を超越するための努力を続け、それをひとつに結集してはじめて、お客様がまだ気づいていない価値を創造することができるからです。

できなかったことを、できるようにすること。それらを次々に実現していくこと。
それが私たちパイオニアが目指すイノベーションです。

ブランドスローガン

Pioneer *sound.vision.soul*

判断・行動のよりどころ

パイオニアグループでは、これからも製品とサービスを提供するなかで社会の変化を常に意識し、株主をはじめ、消費者・顧客、地域社会、取引先および従業員などさまざまな相互関係のなかで対話を通して社会の要請を把握し、その社会的責任を果たしていきます。

「パイオニアグループ企業行動憲章」をもとに、業務における判断・行動の基準として遵守すべき基本的な事項を「パイオニアグループ行動規範」として定めています。「パイオニアグループ行動規範」は、私たちパイオニアグループで働く役員をはじめ、すべての従業員に適用します。グループ各社は、この行動規範を国や地域の法制度や社会慣習などを考慮して各国語に翻訳し、全ての役員と従業員に徹底しています。

「パイオニアグループ企業行動憲章」

1. 私たちは、社会にとって有益かつ安全な製品とサービスを提供します
1. 私たちは、社会的正義を尊重した公正な企業活動を推進します
1. 私たちは、地球環境の保全につとめ、継続的に改善活動を行います
1. 私たちは、情報の適正な開示につとめます
1. 私たちは、万全な危機管理体制のもと迅速・誠実に対応します
1. 私たちは、資産・権利を厳正に管理、保護します
1. 私たちは、グローバルな視点に立ち、社会貢献につとめます
1. 私たちは、人間尊重にもとづいた企業活動をめざします

「パイオニアグループ行動規範」の構成

- 社会から信頼される企業であり続けるために
- お客様の満足と信頼を得るために
- 公正で自由なビジネス関係を築くために
- 業務を適正かつ効率的に遂行していくために
- 一人ひとりがいきいきと働くために
- 規範をもとに行動するために

「パイオニアグループ企業行動憲章」「パイオニアグループ行動規範」はホームページで公開しています。 <http://pioneer.jp/corp/charter/index.html>

2007年3月期の主な企業行動

パイオニアグループは、2006年4月に制定した新企業ビジョンの実践として、「お客様視点に立脚」「プロ意識の結集」「イノベーションに挑戦」をキーワードに、内部統制システムの充実を図りながら社会的責任を自覚した企業行動を推進してきました。

	項目	主な実施内容
コーポレート・ガバナンス	新企業ビジョンの浸透	冊子「THE VISION PIONEER」をもとにした職場での論議を展開
	内部統制システムの構築	内部統制委員会により、統制環境の整備を推進
リスクマネジメント・コンプライアンス	パイオニアグループ規程の見直し	重要リスクに関する規程の整備、内容の見直し
	サプライチェーンCSRの展開	チェックシートにもとづき国内取引先の取組を把握
	製品安全に対する取り組みの充実	製品安全リスクアセスメント手法の構築 製品安全読本の改訂（第二版）
	商品に関する公的規制遵守体制の見直し	公的規制アセスメント規定化とアセスメントの実施
品質向上	源流からの取り組み	先行製品品質計画にもとづく組織横断的な品質向上活動
	修理サービスの品質向上	お客様満足度調査にもとづく仕組み・プロセスの改善
		拠点統廃合、集中化によるサービスレベルの均一化
環境保護	EuP 指令対応設計の2008年実施に向けた情報収集と対応検討	EuP 指令対応ガイドンスの発行と周知
	環境負荷物質の使用量削減や代替	中国 RoHS 対応完了
	温室効果ガス排出量削減	90年度比実質生産高原単位 36% 削減（国内）
	グリーン購入	グリーン購入比率 98.6%
	OA紙使用量削減	2000年度比 26% 削減
	物流における使用エネルギー削減	2004年度比 15% 以上削減
従業員重視	人権の尊重	グループにおける推進体制の構築
	多様性の尊重	Gプロジェクトによる女性社員の活躍推進 女性活躍支援センターの設置
	両立支援	第一期行動計画の推進
	従業員相互のコミュニケーション	オフサイトミーティングの開催推進

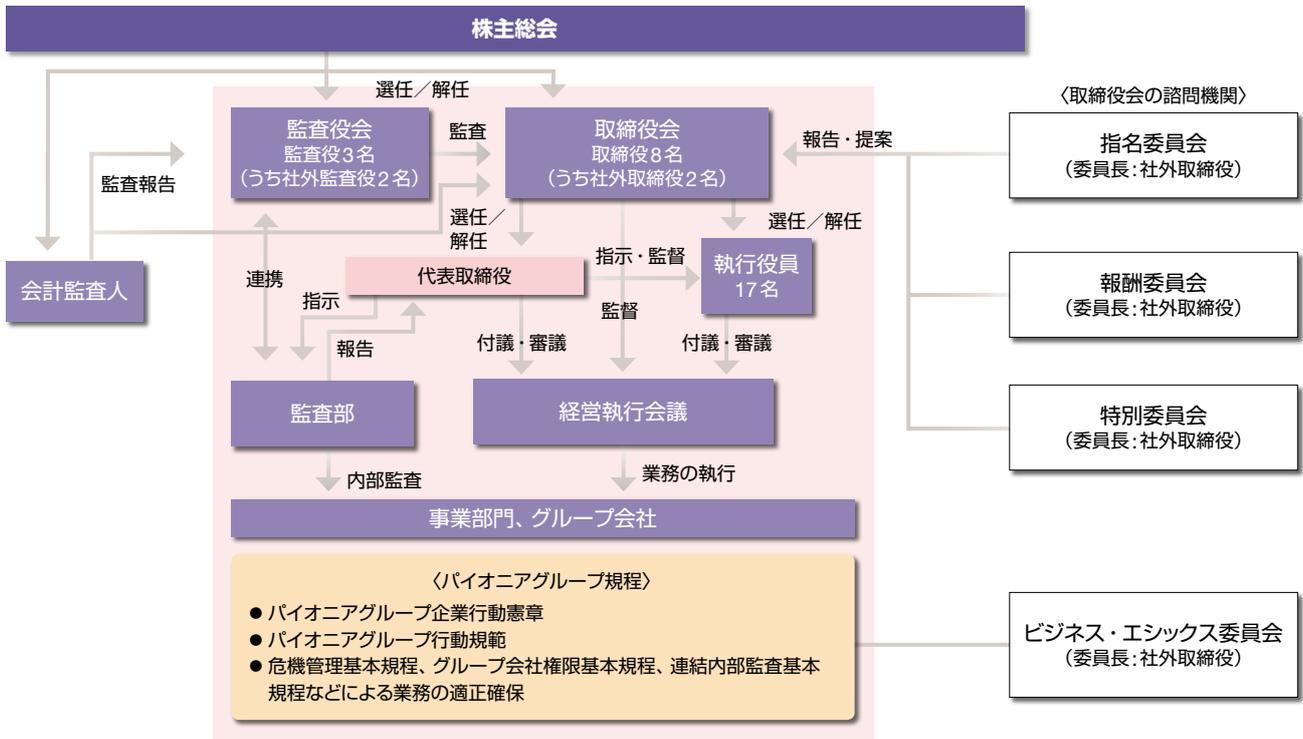
社会から信頼される企業であり続けるために

コーポレート・ガバナンス

パイオニアは、企業価値を向上させていく上で、コーポレート・ガバナンスの強化が極めて重要であると認識しています。

パイオニアでは、コーポレート・ガバナンス体制として「監査役会設置会社」を採用しており、複数の社外取締役を含む取締役会が経営方針等の意思決定と業務執行の監督を行い、監査役会が取締役の職務執行に対する監査を行う

体制としています。この機関構造を基本としつつ、迅速な業務執行と事業責任の明確化を図るため執行役員制度を導入するとともに、経営上の意思決定の透明性を確保することを目的として、経営執行会議および取締役会の諮問機関である任意の委員会を設けています。また、取締役の責任をより明確にして経営環境の変化に迅速に対応できるよう、2003年6月から取締役の任期を1年としています。



経営執行会議の設置

取締役会の意思決定機能を強化するため、取締役および執行役員の中から取締役会が指名したメンバーで構成される経営執行会議を設置しています。経営執行会議は、取締役会の監督のもと、事業推進上の重要課題、投資案件やグループ再編、グループ全体の経営戦略、中長期方針等の議題について十分な議論を行い、これらを決定し、あるいは取締役会が決定権を持つと定められた事項の場合は、取締役会への答申を行うこととしています。

任意の委員会の設置

社外取締役による経営執行の監視に加え、経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的として、社外取締役を委員長とする「指名委員会」「報酬委員会」「特別委員会」を設置しています。三委員会の委員長は、委員会を代表して審議の結果を取締役会議長(社長)に対して報告・提案し、取締役会議長は、その報告・提案内容を十分に尊重し、取締役会の決議を要する事項について取締役会に付議することとしています。

内部統制システムの充実・強化

パイオニアグループは、コーポレート・ガバナンスの仕組みに加えて、グループの役員および従業員の業務における判断・行動の基準として遵守すべき基本的な事項を定めた共通のルールブックとして、「パイオニアグループ企業行動憲章」「パイオニアグループ行動規範」を頂点とする「パイオニアグループ規程」を定め、これにもとづいてグループ全体での業務執行の適正化を図っています。

内部統制システムの充実・強化をさらに推進していくために、2006年9月に代表取締役を委員長とする「内部統制委員会」を設置し、グループ全体の重要リスクに対応するグループ規程の見直しを行いました。2008年3月期は、「金融商品取引法」で求められる「財務報告の適正性の確保にかかる内部統制システム」への対応を図ります。



リスクマネジメント

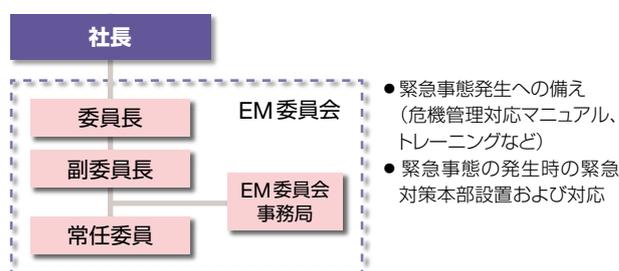
パイオニアグループの事業活動に伴うリスクについて、その管理体制の充実・強化を推進するために、「内部統制委員会」は、リスクの把握と危機の未然防止策について整備を図っています。重要なリスクについては、「パイオニアグループ規程」の中で対応方針を定め、組織的な管理を行っています。また、危機発生時における適切な対応を図るため「危機管理基本規程」を定めています。グループ各

社における重要事項の意思決定については、「グループ会社権限基本規程」にもとづき、権限と責任の所在および承認の手段を明確化し、損失の未然防止を図っています。「連結内部監査基本規程」にもとづき、監査部がグループ各社について組織ごとに、リスク管理状況および危機発生時における対策の確認を行っています。

危機管理対応

パイオニアグループは、2000年10月から緊急事態発生への対応組織として社長直属の「危機管理委員会 (EM委員会)」を設置しています。EM委員会は、代表取締役を委員長、本社の主要管理部門長を常任委員として構成し、月次および臨時に委員会を開催しています。危機管理におけるグループ各組織の役割および危機発生に対する対応手順などについては、「危機管理マニュアル」において定めています。報告対象期間中においてEM委員会が対応した

案件の半分近くを製品関係の問題が占めていましたが、製品安全に関わる重大問題の発生はありませんでした。



社会から信頼される企業であり続けるために

コンプライアンスの徹底

パイオニアグループは、法令や規範を遵守し社会的責任を担うコンプライアンスを、従業員が安心して仕事ができる風土づくりでもありと考えています。パイオニアグループの役員および従業員は、業務における判断・行動の基準としての「パイオニアグループ企業行動憲章」および「パイオニアグループ行動規範」を頂点とする遵守すべき基本的な事項を定めた「パイオニアグループ規程」にもとづいて業務の適正化を図っています。

また、グループの役員および従業員の法令遵守や、「パイオニアグループ行動規範」の徹底を図るため、社外取締役を委員長とする「ビジネス・エシックス委員会」を設置するとともに、社内通報制度として「ビジネス・エシックス・

ホットライン」を設け、これによる通報があった場合には真摯に対応しています。また、「グループ会社権限基本規程」を定め、グループ各社における重要事項の意思決定について、権限と責任の所在および承認の手段を明確化しています。さらに、「連結内部監査基本規程」にもとづき、内部監査部門である監査部が業務運営の状況を監査し、グループ全体の合法性および社内規則の遵守状況を確認しています。

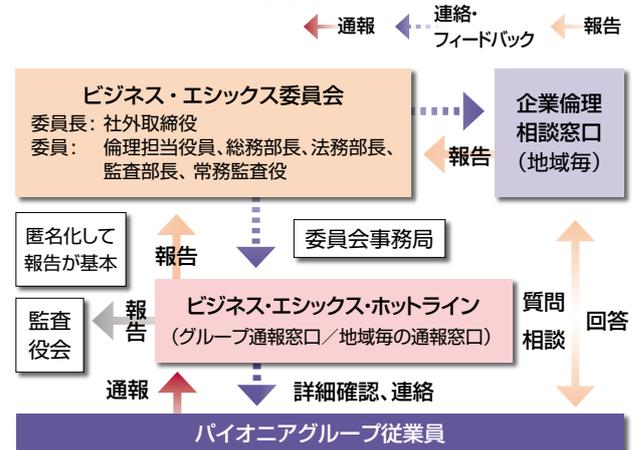


パイオニアグループ行動規範冊子

社内通報制度

従業員が安心して仕事ができる風土を根底から腐らせかねない逸脱行為の撲滅のために、内部監査をグループ全体で充実させるとともに、社内通報制度として2002年からビジネス・エシックス・ホットラインを設けて対応しています。ホットラインは、匿名性を確保しながら通報者から詳細を確認できる仕組みを構築しています。また、通報はビジネス・エシックス委員会と同時に監査役会にも送られる仕組みとすることで、的確に対応できるようにしています。

● 通報・相談情報の流れ(概要)



資材調達取引先への要請

パイオニアグループは、取引先と対等な立場で関係法令および契約に従った誠実な取引を行うことを「パイオニアグループ行動規範」に定めています。また、取引先には事業活動を行う国や地域の法令の遵守、国連やILO、OECDなど国際的な合意事項の尊重にもとづく社会的責任を自覚した行動を求めています。2007年3月には、児童

労働や強制労働の禁止、作業環境の整備などの課題をまとめた「パイオニアグループ・サプライチェーンCSRチェックリスト」を日本国内の取引先に配付し、取引先のCSR活動状況を把握し始めました。2008年3月期はこの活動を海外の取引先にも展開し、サプライチェーン全体の取り組みとして調達本部を中心として推進していきます。

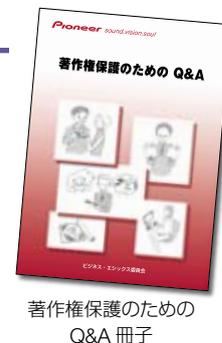
知的財産、著作権の保護

パイオニアグループは、技術開発等から得た知的財産を適切に維持、管理するだけでなく、他者の保有する知的財産を尊重することを基本として日々取り組んでいます。各事業所の著作権保護技術委員会などを含む関連各部門および関係会社が協力し、著作権連絡会を設けてパイオニア製品における全社的な著作権保護技術コンプライアンスの徹底を図っています。

また、パイオニアブランドを信頼し購入されたお客様の

期待を裏切らないように、ブランド価値と社会的信用を脅かす模倣品を市場から排除する取り組みを事業部、知的財産部、法務部など関係部門が協力して行っています。

また、業務活動のなかでの著作権保護のために、Q&A冊子を発行し、相談窓口を設けて問い合わせに対応しています。



著作権保護のための Q&A 冊子

情報セキュリティ

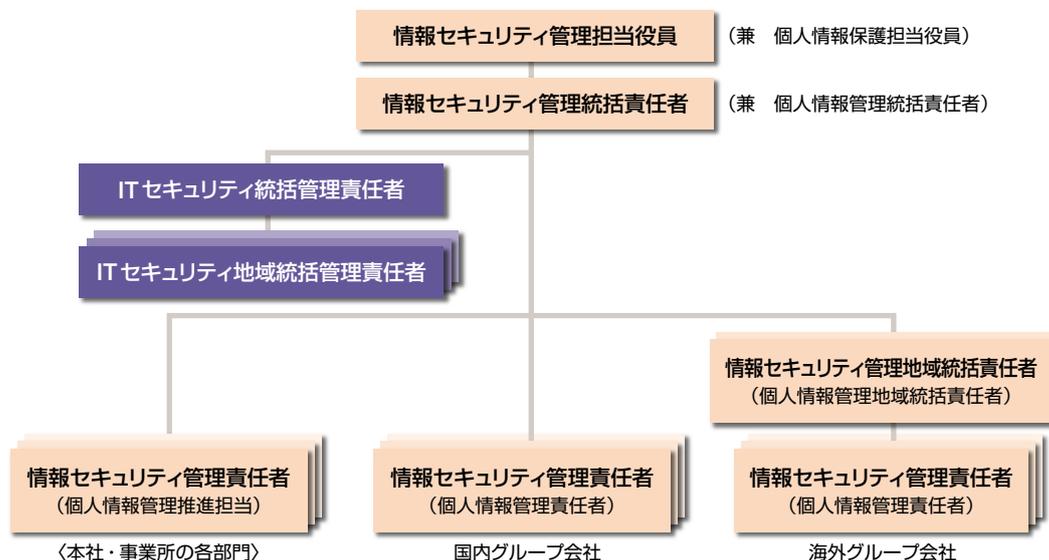
パイオニアグループは、情報資産の保全と活用、管理のための仕組みと組織体制など、情報セキュリティ対策の基本ルールとなる「情報セキュリティ基本規程」を定めて情報

セキュリティ管理に取り組んでいます。2008年3月期は、グループ全社で統一した機密情報の取り扱い、文書のライフサイクルに則した文書管理の運用を徹底していきます。

個人情報保護

個人情報保護については、公開する「個人情報保護方針」とパイオニアグループ規程に「個人情報保護規程」を設け、グループ各社は、この規程に従って個人情報を取り扱い、お客様の権利、権益を厳重に保護しています。意図的な、

「個人情報の漏洩事故」（外部からの攻撃や内部者の不正な持ち出しなど）はなく、紛失事故が、グループ会社において、2005年12月に1件発生しています。2007年3月期は、事故は発生していません。



お客様の満足と信頼を得るために

品質保証の理念

品質保証理念

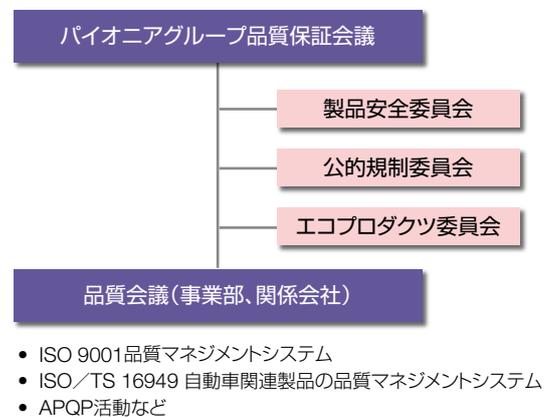
お客様の安心と満足が得られる商品とサービスを提供する

2008年3月期品質方針

組織横断的な先行品質活動により、市場における集中不良「ゼロ」を達成し、安全で公的規制を満足した商品を提供する

パイオニアグループでは、お客様満足を追い求める上でもっとも基本的なことが品質の確保であると考えて品質の向上に取り組んでいます。パイオニアグループ『品質保証理念』を社員全員が認識し、安全な商品、環境規制を含む公的規制を満たした商品、お客様に満足していただける商品を提供するために、品質保証責任と権限を明確にして品質方針にもとづいて活動しています。

組織を横断したパイオニアグループの取り組みとして、品質保証会議および製品安全委員会、公的規制委員会、エコプロダクツ委員会の3つの委員会を設けて活動しています。



品質確保に向けた源流からの取り組み

パイオニアにおける APQP 活動

商品化のプロセスは相互に複雑に絡み合ったプロセスですが、その商品の品質を大きく左右しかねない企画構想から始まる商品開発の初期（源流）段階から品質目標の達成に向けた取り組みを明確にし、問題点の早期発見と解決を行う組織横断的なAPQP（Advanced Product Quality Planning: 先行製品品質計画）活動に取り組んでいます。ひとつでも多くの成功事例を積み重ねて、パイオニアグループのトータルな品質の向上と確保につなげていきます。

APQP 活動のキーポイント

- 予測予防の取り組み
- 組織横断による取り組み
- いつでも現在の状況を共有化

商品化プロセス



製品安全確保への取り組み

パイオニアグループが取扱う商品や販促物に対して、また取り付けや修理において安全を確保するための基本事項を明らかにして、人身や財産等への危険と損害の防止に努めています。そのために、製品安全委員会を中心とした仕組みを整え、日頃からの未然防止活動と迅速な事故対応に取り組んでいます。

ホームページでの告知状況 (2006年4月1日～2007年3月31日)	
● 製品安全に関する重要なお知らせ	0件
● 修理・点検に関する重要なお知らせ	4件

安全部品管理による未然防止

メーカー評価、開発依頼、量産管理などの注意点、ポイントなどをまとめ、規定などに従って活用・運用することで、大きな市場問題を未然防止できるようにしています。

● 製品安全に関する主な施策

2007年3月期実施	2008年3月期(計画)
<ul style="list-style-type: none"> ● 製品安全 (PS) リスクアセスメント手法の構築 ● 製品安全 (PS) アセスメントの実施 ● 製品安全読本の改訂 (第2版) ● 製品安全 (PS) の専門家育成 ● 製造物責任 (PL) / 製品安全 (PS) 教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全に使用していただくための消費者啓発・安全啓発 ● PSアセスメントの実施及びフォローアップ ● PL / PS教育の実施 ● 製品安全に関する自主行動計画への対応

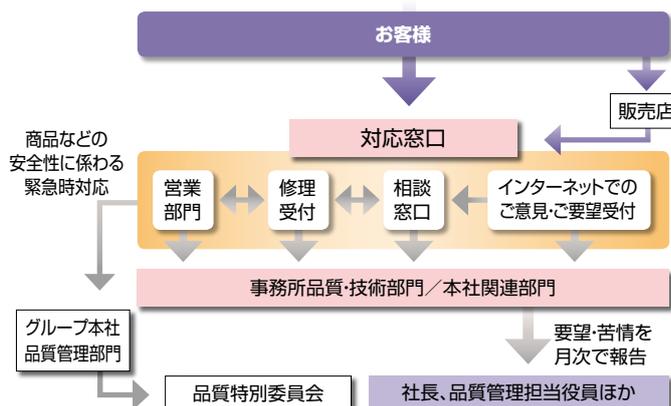
商品に関する公的規制への対応

パイオニアグループは、販売する国や業界、あるいは国際機関において、商品や販促物に要求される公的規制を遵守するために、公的規制委員会などの仕組みを設けて取り組んでいます。

● 公的規制に関する主な施策

2007年3月期実施	2008年3月期(計画)
<ul style="list-style-type: none"> ● 公的規制アセスメントの規定化とアセスメントの実施 ● 事業部門、販売・企画部門への公的規制教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公的規制アセスメントの実施 ● 公的規制教育の実施 ● 電波妨害及び電波規制 (EMC) に関する国際試験所開設

● お客様からの情報の流れ (概要)



製品安全読本

技術者が知識として覚えていなければならない内容を網羅し、本書を繰り返し通読することで、「製品安全」を系統立てて理解できるようにしています。2006年には「製品安全読本」(2003年初版)を見直し、第2版に改訂しています。

主な公的規制

- 安全規制、電波妨害及び電波規制、通信規制等の製品認証にかかわる規制
- 消費者保護や製品認証に基づく表記の規制 (製品本体表示・取扱説明書・梱包箱等)
- 環境規制

お客様の満足と信頼を得るために

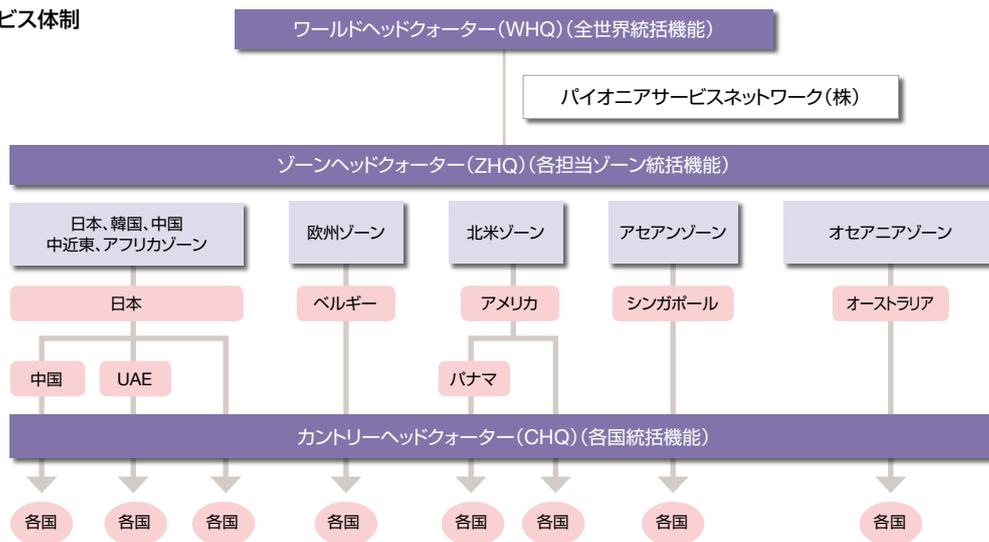
お客様へのサポート・サービス

パイオニアグループは、全世界どこでも、質の高い、感動を提供できるサポート・サービスの仕組みづくりに取り組んでいます。全世界におけるサポート・サービスについて、毎年お客様満足度調査を行い、その結果にもとづいて主要施策を決定し、CS(お客様満足)の向上につなげる活動を行っています。常にお客様視点で物事を判断し、お客様に感動を与えるサービスの提供により、お客様との信頼関係を高め、全世界のお客様の期待に応えていきます。

お客様からの相談対応 (カスタマーサポート)

カスタマーサポートセンター(日本国内)では、お客様の視点に立った分かりやすい窓口を目指して国内のパイオニア製品のサポート業務を統合し、年間約40万件の電話やEメールによる商品の購入前や購入後の相談に対応しています。お問い合わせに対して単に回答するだけでなく、お客様の役に立つ商品情報の提供や付加価値の提案を行い、お客様視点に立った一層のCS向上を図っています。2007年3月期は欧州でもコンタクトセンターを集中化して対応レベルの均一化と対応品質の向上を図りました。

● 全世界サービス体制



● 主なお客様へのサポート・サービス施策

	2007年3月期の主な施策の結果	2008年3月期の施策(計画)
全世界	<ul style="list-style-type: none"> 修理サービスのスピードアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 修理サービスのスピードアップ お客様情報を製品品質・商品力に反映する仕組みの強化
国内	<ul style="list-style-type: none"> 商品別お客様満足度調査に基づく仕組み・プロセスの改善 カー OEM 製品サービス体制の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 地域 No. 1 AV サービス拠点づくりの推進 ナビ OEM 製品のサービスレベル向上 ユーザーの自己解決を促す「e-セルフサービス」の推進 企画/技術との連携強化
海外	<ul style="list-style-type: none"> コンタクトセンター集中化による対応品質の向上(欧州) 修理拠点の統廃合による修理品質の向上(欧州) 	<ul style="list-style-type: none"> カー OEM 製品のサービス体制の強化(欧州・米国) 新興成長市場(BRICsなど)におけるサービス体制の構築

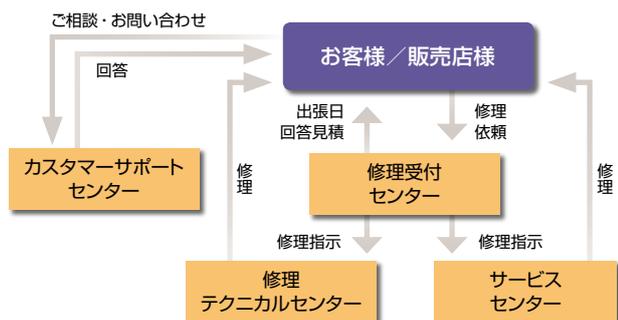
商品の修理サービス

日本国内のお客様からの修理サービスに対する期待と要望である「修理スピードの向上」への取り組みは、「問い合わせ窓口の分かりやすさ」や「対応の丁寧さ」、「修理や説明の適切さ」などとともに、お客様から高い評価を受けており、日経ビジネスの「アフターサービス満足度ランキング」における薄型テレビ部門で2005年から3年連続「満足度1位」を獲得しています。

2007年3月期は欧州地域の修理拠点の統合として、ベネルクス市場でのPDP集中修理センター、カー製品およびAV製品の修理体制を稼働させ、修理品質の向上、料金の低減などを図りました。

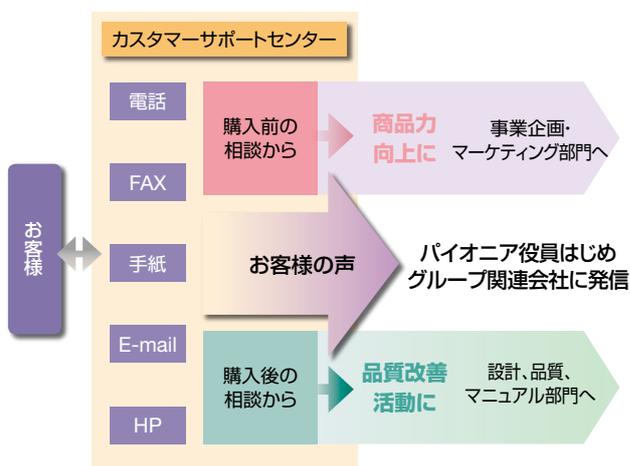
2008年3月期は北米を中心としたカーOEM製品のサービス体制の強化や今後お客様の要望が高まると予測されるBRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）など新興成長市場に対するサービス体制の強化・充実を図っていきます。

● お問い合わせ、修理依頼の対応（日本国内）



お客様の声を社内に伝える仕組み

お客様からの情報は、的確に関連部門に伝え、営業支援活動や品質改善活動に結びつけています。たとえばカスタマーサポートセンター（日本国内）では、お問い合わせや苦情を毎月まとめたレポート「お客様の声」を役員と関連する部門の担当者に配信しています。また、事業部との定期的な会合でも商品の企画に活用できる情報を提供しています。海外でも同様の活動を行っています。



相談情報モニター体験制度

カスタマーサポートセンターに寄せられる「お客様の声」をより多くの社員が直接聞くことにより、社員一人ひとりが気づきを積み重ね、「企業ビジョン」のお客様視点に立った行動を実践し続けるために、相談情報モニター体験制度を設けています。

環境保護

環境経営の考え方と取り組み

パイオニアグループ環境方針

環境保護の理念

パイオニアグループは、地球環境を維持、改善し、次世代に引き継ぐことが企業の使命の一つであることを深く認識し、常に豊かで安全な環境の実現に寄与するよう努めます。

環境保護活動基本方針

1. 規制等の遵守

環境に関する法律、条例および同意した要求事項等を確実に守ると共に、必要に応じて自主管理基準を定めて環境負荷の低減に努めます。

2. 環境の保全

オゾン層破壊物質、地球温暖化ガス、有害物質などの環境負荷物質は、使用の中止、代替物質への転換、および排出の抑制を行い、生態系への影響も配慮しながら事業活動による環境負荷を低減すると共に汚染の予防に努めます。

3. 環境に配慮した製品開発

部品・材料の調達段階から製品の廃棄に至るまでの環境への負荷を検証し、それを低減するために、製品設計段階で「製品アセスメント」を実施します。また、製品に含まれる環境負荷物質の適正な管理と削減、環境に配慮した新技術の開発に努めます。

4. 目標管理

省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減など、環境負荷低減のために取り組むべき課題の目標を定めて、達成に努めます。

5. 環境保護推進体制

グループ本社環境担当役員のもとにパイオニアグループの推進体制をとります。各部門でもこれに対応した体制をとり、最適な環境マネジメントシステムを構築します。

6. 教育と啓発

環境方針を含めた教育と啓発を全従業員に行います。また必要に応じた専門教育を実施します。

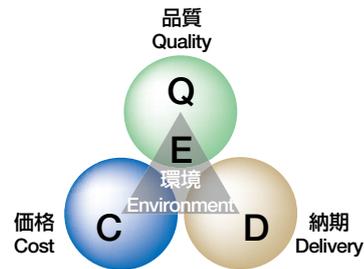
7. 継続的改善

日頃から活動状況を把握すると共に、環境監査の結果などに適切な処置を行って、環境マネジメントシステムおよび活動実績を継続的に維持・改善します。

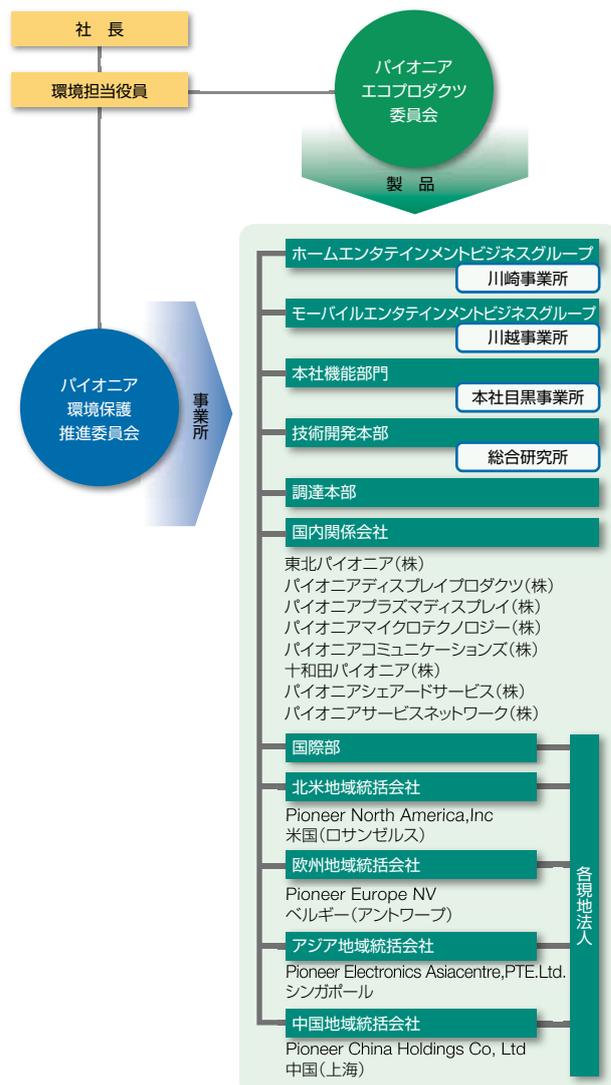
8. 情報の公開とコミュニケーション

環境方針、活動目標、実績を環境報告書などによって社会に公開し、社外とのコミュニケーションに努めます。

パイオニアグループは事業活動と環境活動の真の統合を目指します。



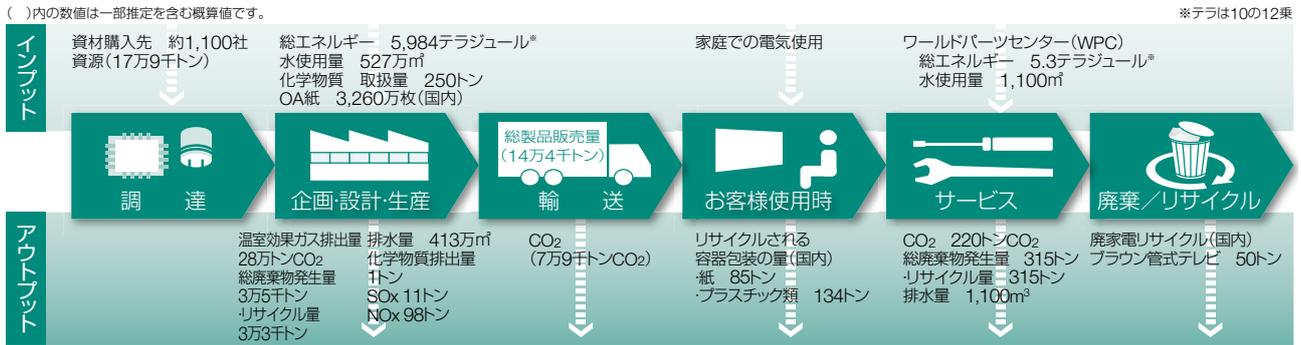
● 環境保護活動体制



パイオニアと環境負荷

パイオニア製品が、企画され、設計や製造工程を経て、商品となってお客様の手元に届けられ、使用され、寿命を終えて廃棄またはリサイクルされます。そのプロセスごと

に、環境へのさまざまな負荷が発生することは避けられません。パイオニアは、この環境負荷を可能な限り低減することを課題として、一つずつ努力を続けています。



環境目標と実績

項目	課題	2007年3月期目標	2007年3月期実績	自己評価	2008年3月期目標	2011年3月期目標
製品	環境配慮設計	EuP指令などの情報収集と対応検討(2008年EuP対応設計実施)	EuP対応ガイドス発行し、全社への周知・浸透を図り、対応システムづくりを開始	○	環境配慮設計の推進、EuP対応の仕組み構築 ・省エネルギー ・LCA(ライフサイクルアセスメント) ・リサイクル容易化 ・再生材料の利用促進	●各種環境配慮項目においてトップ水準となる製品の提供 ●温室効果ガス排出量 ・(国内)1990年度比36%以上削減(実質生産高原単位) ●グループでゼロエミッション達成 ●VOC30%削減
	環境負荷物質の使用量削減や代替	代替技術の開発による鉛、水銀、六価クロム、カドミウムなどのさらなる削減	中国RoHS対応完了 カースピーカーの一部モデルで無溶剤型接着剤を使用し、VOCを削減	○	・小型軽量化 ・環境負荷物質(EHS)の削減(中国RoHS、韓国RoHS) ・新化学品規制への対応(欧州REACH)	
	消費電力の削減	年間消費電力 前年モデルより削減	年間消費電力7%削減(7.5世代50V型PDP)	○	90年度比実質生産高原単位36%以上削減(国内)	
事業所	地球温暖化防止(温室効果ガス排出量削減)	90年度比実質生産高原単位* 25%削減(国内)	90年度比実質生産高原単位36%削減(国内)	◎	90年度比実質生産高原単位36%以上削減(国内)	●「企業市民としての社会との調和」
	廃棄物の削減(廃棄物ゼロエミッション)	海外グループの全生産事業所へ展開	海外基準設定・情報展開	○	国内:ゼロエミッションの継続 海外:リサイクル率94%	
	化学物質の適正管理	PRTRの適正管理と報告、VOC代替物質の検討	PRTR:前年度比大気排出量74%削減 VOC:検討ワーキンググループの結成と計画立案	○	PRTR:前年度実績以上を継続 VOC:代替物質の検討	
	グリーン購入	グリーン購入比率95%以上	グリーン購入比率98.6%	○	グリーン購入比率95%以上	
	OA紙の使用量削減	2000年度比16%以上削減(前年実績以上)	2000年度比26%削減	◎	2006年度比26%以上	
物流における使用エネルギーの削減	使用エネルギー2004年度比9%以上省エネルギー法の枠組みに対応準備	使用エネルギー2004年度比15%以上削減 省エネルギー法へ対応	○	使用エネルギーを実質売上高原単位で対前年度比1%改善		
管理活動	広報活動	ホームページ1回以上の更新 子供向け広報の充実	マンガ環境玉手箱3話分追加	○	マンガ環境玉手箱3話分追加	
社会性活動	環境教育・啓発	環境貢献賞の継続実施、事業所ごとに環境講演会の実施 国家資格新取得者数100人以上、内部環境監査員200人体制維持、eラーニングによる環境教育の充実	環境講演会や一般教育の実施(全事業所) 国家資格新規取得者数100人以上達成、内部環境監査員200人以上維持	○	環境貢献賞の継続実施、事業所ごとに環境講演会の実施 活動の継続・推進	
	環境社会活動	パイオニアグループ社会貢献活動指針に基づいた活動の推進	各事業所でゴミゼロ運動実施、環境シンポジウム、植林の実施など	○	社会貢献活動指針に基づいた活動の推進	

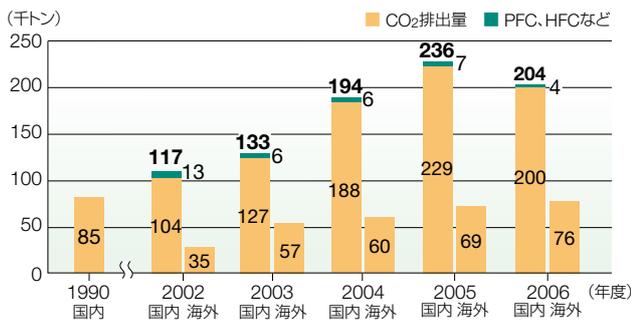
(注)「自己評価」の基準 ◎ 目標を大幅に達成した / ○ 目標を達成した / △ 目標達成にわずかに届かなかった / × 目標未達成であった

* 実質生産高原単位: CO₂排出量÷実質生産高[各年度の生産高を1990年度基準とした電気機器の日銀国内企業物価指数(2006年度は0.486)で割って算出します。]

CO₂排出量の削減

パイオニアグループは(財)日本経団連の自主行動計画に参加し、電機・電子業界の目標である「1990年度を基準に2010年度に実質生産高原単位でCO₂排出量28%削減」を目標にして活動するとともに、総排出量の削減にも取り組んでいます。プラズマテレビ以外の既存製品については、1990年度を基準にCO₂排出量43%削減を目標に掲げ活動しています。プラズマテレビを含めた全事業では、

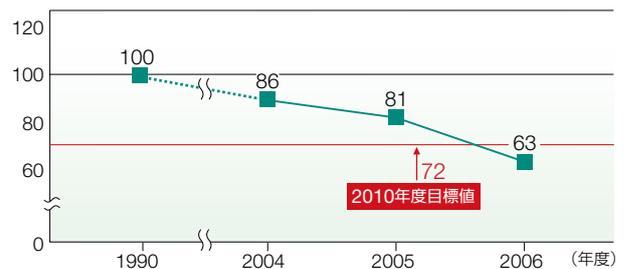
● 温室効果ガス排出量の推移



1990年度を基準に実質生産高原単位で2010年度に28%削減の達成に向けて活動しています。

なお、生産工程で使用しているCO₂以外のPFC、HFCなど温室効果ガスについても、CO₂排出量に換算して管理し、製造ラインへの除外装置を設置するなど、排出量削減に注力しています。

● 実質生産高原単位の推移 (指数 1990年を100とする)



自然エネルギーの利用

太陽光発電システム

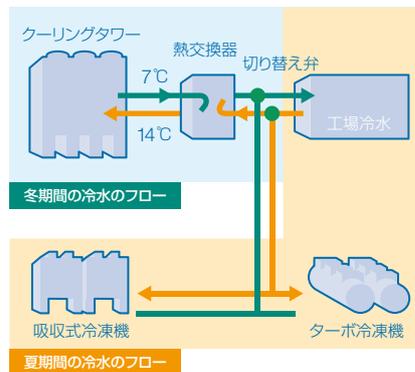
山梨県のパイオニアマイクロテクノロジー株式会社(MTC)は太陽光発電新技術等フィールドテスト事業*の一つとして、2007年3月14日から太陽光発電システムを利用した発電を開始しました。MTCでは、この太陽光発電システムにより、年間154,000kWhの発電量、森林換算面積で約16ヘクタールのCO₂吸収効果を見込んでいます。



屋上に設置されたハイブリッド太陽光発電パネル

フリークーリング

東北パイオニア株式会社米沢事業所は、気候特性を生かし、自然エネルギーの利用によって空調設備や生産装置冷却水に使用する冷水を製造するフリークーリングシステムを導入しました。冬期において、低温の外気を利用して冷水を製造することにより、2006年度冬期は869トンのCO₂の削減効果が得られました。



* 太陽光発電新技術等フィールドテスト事業…独立法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) との共同開発研究事業で、産業施設などへの太陽光発電システムの導入を促進するため、新技術の開発と建設コスト低減を目的とした支援制度。

生産工程での環境負荷物質の削減

生産工程で使用される環境負荷物質による環境負荷を低減するために、内部目標を定めて排出量削減に取り組んでいます。また、揮発性有機化合物（VOC）については

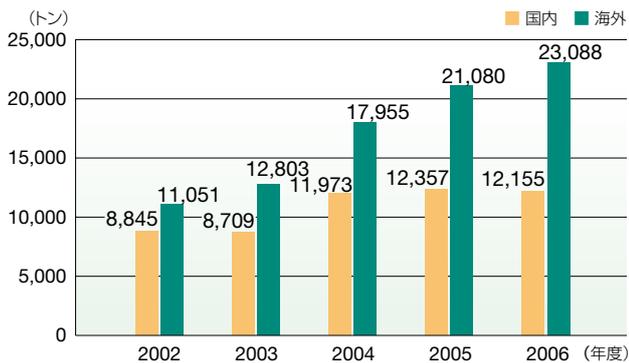
業界自主行動計画にもとづいて削減に取り組んでいます。なお、オゾン層破壊物質の使用についてはすでに全廃しています。

廃棄物ゼロエミッションの取り組み

パイオニアグループでは、事業所からの廃棄物の99%超をリサイクルし、廃棄物の埋立てをゼロに近づけることを「廃棄物ゼロエミッション」と定義し、2005年度には、

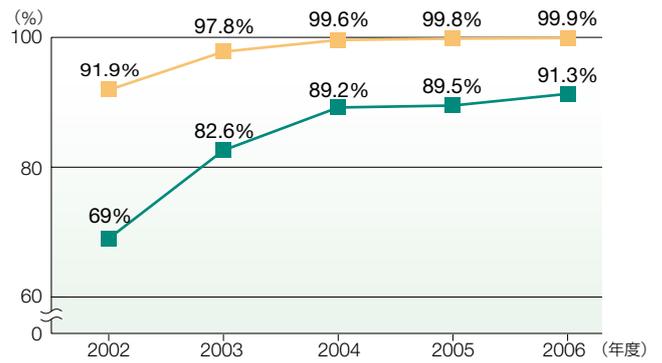
国内グループの全生産系事業所で達成しました。現在は、海外グループでの達成を推進しています。

● 廃棄物量の発生量の推移



2006年度の廃棄物の発生量は、国内が前年比2%減少し、海外は10%増加しました。海外の増加は、生産量が増えたためなどで、今後は海外での発生量削減に努めます。

● リサイクル率の推移



2006年度の国内のリサイクル率は99.9%で昨年に続き廃棄物ゼロエミッションを継続しています。海外は91.3%で、今後は海外で廃棄物ゼロエミッションを推進し、さらなるリサイクル率の向上を目指します。

グリーン購入

グリーン購入の基本的な考え方は、「ムダなものを買わない」「必要な物だけを購入する」そして「購入する場合は、環境に配慮されたものだけにする」ことです。

グリーン購入を推進するため、100%グリーン購入対象品目を設定しています。これは例外を認めない厳しい目標

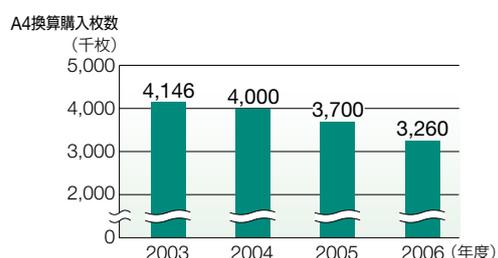
です。2006年度には12品目を設定し9品目で達成しました。2007年度に複合機を追加して活動をさらに拡大します。

OA紙については必要なものだけを購入するという考え方にもとづき、前年度以下の購入量を目標に削減に努めています。

● 100%グリーン購入対象品目

- OA紙
 - コピー機
 - プリンター
 - FAX
 - トイレトーパー
 - パソコン
 - オフィス家具
 - 制服
 - 社有車
 - テレビ
 - 冷蔵庫
 - 電子黒板
 - 複合機
- (2007年より)

● OA紙の購入量



製品の環境配慮設計

パイオニアグループは、「資源の循環的な利用」、「環境負荷物質の削減」、「地球温暖化の防止」を重要な環境課題ととらえ、環境負荷の低減に向けた環境配慮設計を推進しています。特に、地球温暖化の原因となるCO₂の発生抑制については、製品使用時の消費電力低減、生産時のエネルギー低減、輸送効率の向上などにライフサイクル

アセスメント (LCA) の手法を取り入れて推進するとともに、カーボンニュートラルの考え方からCO₂削減に有効とされる植物由来樹脂の採用にも注力しています。また、「パイオニア環境マーク表示ガイドライン」を制定し、その条件を満たした環境に配慮した製品には「パイオニア環境マーク」を表示しています。

パイオニア環境マーク



地球・環境を大切に
Pioneer

パイオニア環境マークは、「地球」「環境」「共生」をイメージしています。

パイオニア環境マーク表示ガイドライン

必須項目 (すべての項目に満足している)

1. 環境に関する製品アセスメントを実施している
2. リサイクル容易化のため、20g以上の樹脂部品にはISO規格に基づく素材表示をしている
3. 焼却時にダイオキシンの発生源になると言われている特定臭素系難燃剤を使用していない
4. 製品中及び社内生産工程でフロン・代替フロンなどオゾン層破壊物質をいっさい使用していない
5. すべての電池は取出し易い構造になっている
6. 梱包材料を1990年度比20%以上削減している
7. 鉛の含まれていないはんだを導入している

選択項目 (1項目以上満足している)

1. 待機時消費電力を削減している (リモコン待機時消費電力:0.5W以下、但しCATV端末は1W以下)
2. 発泡スチロールなどの樹脂性緩衝材を全廃している
3. 商品本体に再生材料を多用している

製品における環境負荷物質の削減

パイオニアグループは、お客様に安心してお使いいただける製品の提供と、製品が廃棄された後に環境を汚染する恐れのある化学物質を排出することがないように、環境負荷物質 (EHS: Environmental Hazardous Substances) の削減を推進しています。2002年12月にEHS管理基準を、2004年2月にグリーン調達基準書を発行して部品・

材料のグリーン調達を推進し、現物測定、サプライヤ監査など万全の管理体制を敷いて、製品へのEHS含有リスクを極小化しています。RoHS指令^{*}は、中国をはじめ欧州以外の国・地域において、同様の特定化学物質に対する法制化が進んでいますが、パイオニアグループでは2005年の新製品からすべての対応が完了しています。

^{*} RoHS指令…電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令。

EUにおいて2006年7月以降に販売される電気・電子機器には、鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB (ポリ臭化ジフェニール)、PBDE (ポリ臭化ジフェニルエーテル) の6物質群が特定化学物質として使用が禁止された。

EHS分析での取引先支援

2003年4月、川越事業所に開設したオープンハウスに、部品などに含まれる環境負荷物質（EHS）を分析する蛍光X線分析装置を設置しました。分析の環境とノウハウを中小の取引先は無償提供することで、取引先の負担を大幅に軽減しながら、グループと協力会社一体となったEHS削減・全廃の取り組みを行っています。



EHS分析を行っている
解析室

揮発性有機化合物（VOC[※]）の削減

川越事業所は、カーエレクトロニクス製品からのVOCの微量放散を分析するため、設備を2005年9月に整備運用を開始しました。これは2007年4月の新型乗用車から始まった日本自動車工業会のVOC自主規制などに対応したものです。社内での分析が可能になったことで、問題発生時のレスポンスが向上し、また企画、開発、生産の一貫したプロセスの中でVOC低減の方策を検討していけるようになりました。

今後は、分析から得られたノウハウを、ホームエレクトロニクス製品への展開や部品サプライヤーへのフィードバックなど、さらなる改善に向け活用していきます。

※ VOC…Volatile Organic Compoundsの略。常温常圧で大気中に容易に揮発する有機化学物質の総称であり、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、エチルベンゼンなど産業界で広く使われている。シックハウス症候群や光化学スモッグの原因となる。



ガスクロマトグラフ質量
分析装置(GC-MS)



高速液体クロマトグラフ
分析装置(HPLC)

修理交換した部品の回収・再生

パイオニアでは環境保護の一環として、サービス部品の3R(Reduce, Reuse, Recycle)に取り組んでいます。修理交換した部品のなかで、お客様にとって廃棄が難しい大型の基板やメカユニットは、回収して適切な廃棄物

処理をしています。また、お客様には本主旨をご理解の上、再生が可能な部品の回収、サービス部品としての再使用(Reuse)にご協力いただいています。

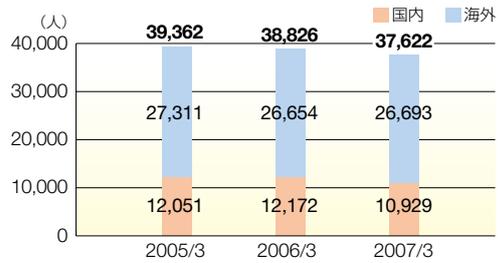
従業員重視

一人ひとりがいきいきと働くために

企業ビジョンの実現に向けて

パイオニアグループは、企業ビジョンに掲げた、“すべての社員がお客様視点に立つこと、プロ意識を結集すること、イノベーションに挑戦し続けること”の実現に向け、“人材・組織の能力強化”を目指しています。

● パイオニアグループ社員数推移



人権の尊重

「パイオニアグループ企業行動憲章」では、「人間尊重にもとづいた企業活動をめざす」ことを謳い、これに沿って遵守すべき事項を「パイオニアグループ行動規範」、人事管理に関する基本的事項を「人事管理基本規程」に定めています。「パイオニアグループ行動規範」では、快適で安全な職場環境の実現を目指すとともに、雇用と労働において人権を

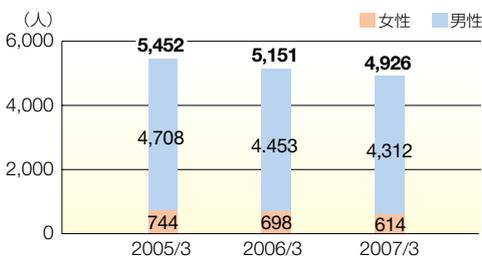
尊重し相互に敬愛しながら、公平・公正に配慮し、透明性の高い仕組みづくりを行うこととしています。

- 差別の禁止
- ハラスメント行為の禁止
- 労働災害の防止など
- 児童労働・強制労働の禁止
- プライバシーの保護

多様性の重視

パイオニアは、企業ビジョンに掲げるイノベーションに挑戦し続ける企業であるために、多様な人々が活躍できる組織風土づくりに取り組んでいます。そして、この取り組みを国内グループ全体に広げていきます。

● 正社員数推移 (パイオニア)



プロジェクト活動 (Gプロジェクト) の取り組み

「Gプロジェクト」は、「活力のある組織を目指す上で、女性の活用に取り組むことは企業戦略の一環として極めて重要な課題」という認識のもと、2004年に社長直轄のプロジェクトとしてスタートしました。性別にかかわらず、能力を発揮し伸ばし、安心していきいきと仕事ができる環境づくりを進めてきました。



Gプロジェクトで進めてきた環境づくりに加え、人事政策面での取り組みを強化しています。

女性活躍支援センターの設立

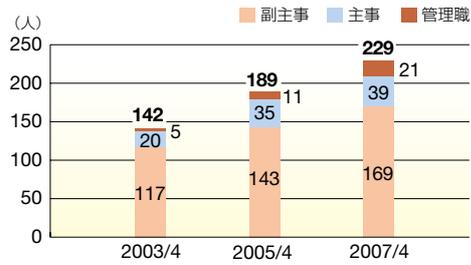
パイオニアという企業そのものの競争力を高める重要な鍵のひとつである女性社員の活躍を支援するために、2007年5月に人事部に女性活躍支援センターを設置しました。Gプロジェクトで進めてきた環境づくりに加え、人事施策面での取り組みを強化しています。

女性管理職や基幹職が過去3年間で着実に増加しているなか、ビジネスチャンスを見逃さずイノベーションに挑戦し続け、すべての社員がいいきと活躍できる風土づくりを目指し、具体的なアクションプランを展開します。

両立支援に関する取り組み

パイオニアでは労使協調して、2005年4月から2007年3月までを対象期間として、両立支援に関する行動計画を推進してきました。この活動が評価され、2007年5月に厚生労働省より次世代認定マーク(愛称「くるみん」)を取得しています。さらにこの活動の拡充を図るため、2007年4月に第2期行動計画を策定し、「女性の活躍支援推進」、「職場の理解促進と本人の意識の啓発」、「男女がともに育児参加しやすい環境の整備」の3つのテーマで、短時間勤務制度の柔軟化や利用期間の延長など、仕事と家庭の両立をサポートするための取り組みを強化しています。

● 女性基幹職数および管理職数推移 (出向者含むパイオニア籍社員)



次世代育成支援リーフレット

● 各種制度の利用者数 (パイオニア)

	2007年3月期 (人)
育児休業制度	79
介護休業制度	3
育児・介護のための短時間勤務制度	43

第1期活動成果 (2005年4月~2007年3月)	第2期行動計画 (2007年4月~2009年3月)
<ul style="list-style-type: none"> ● 育児を行う社員に向けた 両立支援のためのプログラム <ol style="list-style-type: none"> 1. 育児休業取得者に対する職場復帰プログラムの拡充導入 2. 休職中の社員への情報提供、情報交換ツールの作成 3. 育児関連の相談窓口の設置 ● すべての社員を対象としたプログラム <ol style="list-style-type: none"> 4. 次世代育成リーフレットの作成、配布 5. アンケート、e-ラーニングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性の活躍支援 <ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事と家庭の両立を支援するためのセーフティネット整備 2. 育児をしながら働く社員がより能力を発揮できる環境整備 ● 職場の理解促進と育児を行う社員本人の意識の啓発 <ol style="list-style-type: none"> 1. 育児を行う社員本人の両立に対する意識の醸成 2. 職場全体での両立実現に対する理解促進・協力体制の構築 ● 男女がともに育児参加しやすい環境の整備

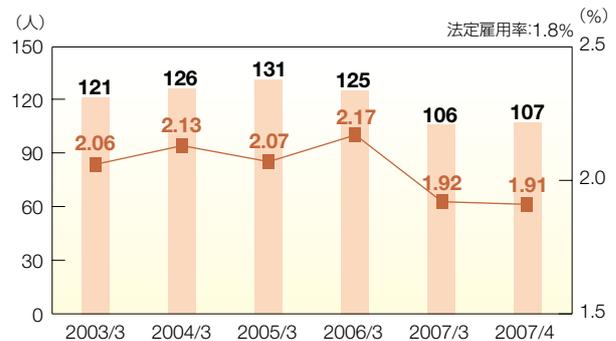
従業員重視

一人ひとりがいきいきと働くために

障がい者の雇用促進

パイオニアは、企業の社会的責任を果たすとともに、多様な人材の活用を図っていくために、障がい者雇用の取り組みをこれまで積極的に行ってきました。2005年には、法定雇用率(1.8%)を上回る障がい者採用活動や職場定着の推進などへの取り組みが評価され、東京都障害者雇用促進協会より「障害者雇用優良事業所」として表彰されています。今後も積極的に障がい者雇用を推進し、グループ全体で職域の拡大に努めていきます。

● 障がい者雇用の推移 (パイオニア)



メンタルヘルスケア

パイオニアは、社員の健康管理について、安全衛生面での配慮のみならず、人と企業を伸ばす視点において経営の重要な課題として取り組んでいます。とりわけメンタルヘルスケアは統一基準で予防中心型の取り組みを推進し、管理職や従業員を対象としたセミナーの開催、啓発を目的としたリーフレットの配布、カウンセリング体制の構築などさまざまな施策を展開しています。



基本方針:メンタルヘルス障害を“つくらない”、“放置しない”

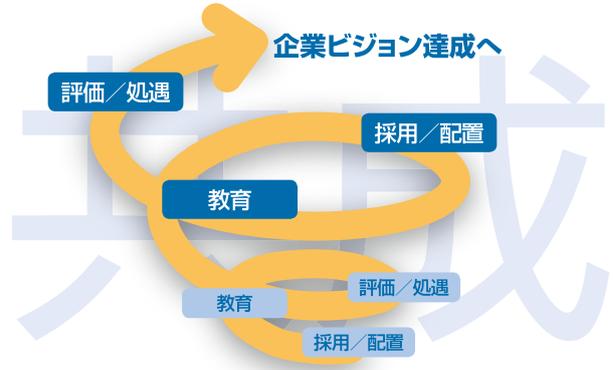
労働災害防止

パイオニアは、労働災害の防止について、安全や心身の健康に配慮した職場環境と作業環境の維持・改善は、社員が安心して職務を遂行するにあたって基盤となる重要なもの

と考えています。事業所毎の安全衛生委員会の取り組みをはじめとして、災害防止や改善策の立案・実行など、各職場に対応した労働災害防止活動を推進しています。

人材育成

パイオニアでは、人材育成にあたり「共成」(=個人と組織が共に成長すること)の考え方にに基づき、「採用／配置→教育→評価／処遇のスパイラル」が有機的につながる人事制度・施策・運用の展開を図っています。



社員意識調査

パイオニアでは、2001年に経営品質向上活動の一環として始めた社員意識調査を継続して実施しています。2006年には経営品質向上のための「組織の健康診断」と位置づけ、パイオニアグループ全従業員を対象として実施しました。現在の会社の風土や運営の仕方、また社員が日

常の業務を進める中で感じている問題点を把握し、よりよい組織風土醸成へつなげていきます。

回答率:国内グループ平均90.0% (パイオニア89.2%)
対象者:13,418名 回答者:12,080名

オフサイトミーティングの推進

オフサイトミーティングとは、文字通り日常の職場を離れて気楽な雰囲気です話をする「気楽で真面目な話し合いの場」のことです。日頃言えない本音を話し、お互い聞き合うことで「新しい価値との遭遇」や「モチベーションの向上」「チームワークとしての一体感」などが生まれてきます。

パイオニアの各事業所・国内グループ会社では、自分たちの職場を元気にしようとオフサイトミーティングをそれぞれ開催して「気づき」を発見し、社員一人ひとりの意識が変わることで会社を変えていこうとしています。



オフサイトミーティング風景



「推進担当者会議」に集合した各事業所・国内グループ会社の担当者

社会貢献活動

パイオニアグループでは、精神的に豊かで持続可能な社会の実現を目的として、事業活動で得た技術力やノウハウを社員一人ひとりが活かせる、音楽・映像、環境保全、教育支援を中心とした社会貢献活動に取り組んでいます。

音楽・映像

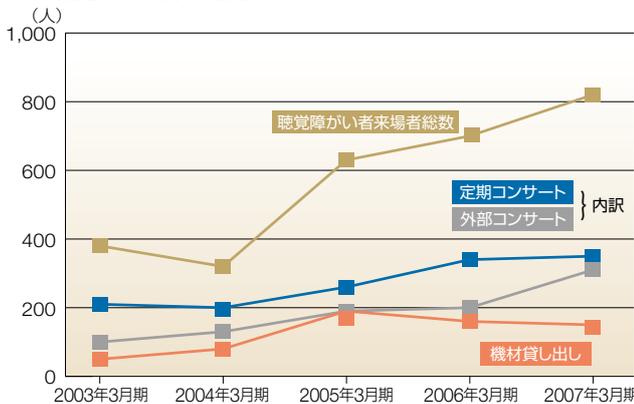
身体で聴こう音楽会

より深い感動を、より多くの人と分かちあいたい。その思いを胸に、音を振動に変える体感音響システムを使って、聴覚に障がいを持つ人も音楽を楽しめる「身体で聴こう音楽会」を日本各地で年に30回以上開催しています。

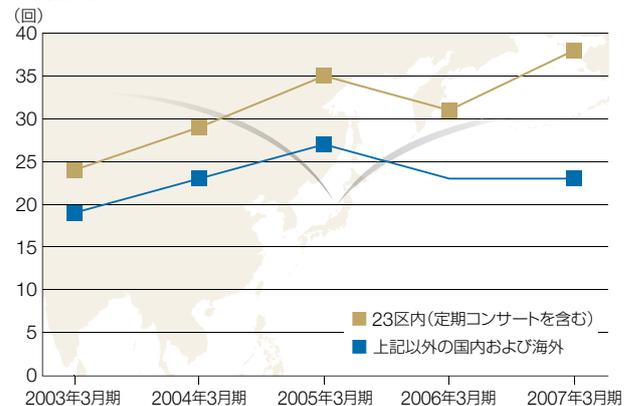
1992年から始まったこの音楽会は、社員とその家族によるボランティアによって運営されており、本社のロビーで行われる定期コンサートでは、さまざまなジャンルの演奏者

を迎え、バラエティに富んだプログラムが行われています。最近では開催場所を東京近郊から国内各地へ広げ、またシンガポール、ベルギーなどパイオニアグループの海外拠点で開催するなど、さらに多くの人々と音楽を楽しむ感動の輪を広げています。開催したシンガポール、ベルギーでは体感音響システムを常備し、独自のイベントを企画して継続した活動をしています。

● 聴覚障がい者来場者数



● 開催場所の広がり



「身体で聴こう音楽会」風景



体感音響システム

体感音響システムでは、イスに置いたクッションと手のひらやひざに置くポーチに振動ユニットを内蔵して、小音量でも臨場感あふれる重低音振動が直接身体に伝わるようにしています。

環境保全

パイオニアの森

木材を使ってスピーカーを製造している企業として、森林保全活動に力を入れています。2005年に埼玉県農林公社と協定を結び、同県鎌北湖近くにある2.4ヘクタールのヒノキの森を「パイオニアの森」と名づけ、春と秋の年2回、定期的に手入れを行っています。社員とその家族のボランティアによる間伐や枝打ちなどの作業により、当初は暗く陽の当たらなかつた森も、明るく緑あふれる森へと生まれ変わってきました。今後も継続的な管理を行うとともに、子供たちの自然体験教室など森を利用した活動もさらに充実させていきます。

また、国内各拠点では通勤路や事業所近くの海岸、清流のゴミゼロ活動の開催などの環境保全活動に取り組んでいます。



第5回パイオニアの森イベント



パイオニアプラスマディスプレイ(株)の清掃活動

教育支援

ものづくり教室

ものづくりの技術を次の世代に伝え、その楽しさを体験してもらうために、教育支援活動を積極的に行っています。その一環として、小学生を対象に開催している「ものづくり教室」では、社員が指導にあたり、紙製スピーカーやDVDプレーヤーの組み立て作業などを子供たちが自ら行います。初めてつくったスピーカーから音が出た時の喜びや、自分で組み立てたDVDプレーヤーから映像が映し出された時の驚きなどを実際に感じてもらうことで、ものづくりの楽しさを多くの子供たちに伝えていきます。

また、総合研究所での「わくわく!ドキドキ!科学教室」、事業所で開催する生徒や教師に対する環境講演、活動説明会なども行っています。



「ものづくり教室」でのDVDプレーヤー組立て体験

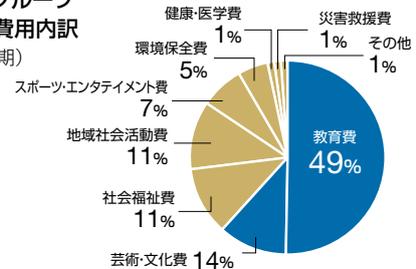


「わくわく!ドキドキ!科学教室」での音声認識体験

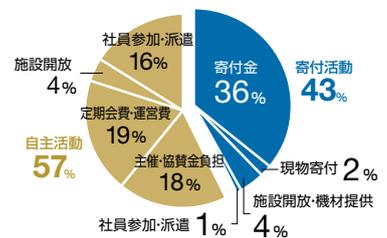
社員の社会貢献を支援していく仕組み

パイオニアグループは、社員から寄付を募り、同額程度を会社が拠出して合わせた金額を募金するという「マッチングギフト制度」を2006年から導入し、多くの社員の協力を得ています。また、社員の社会貢献に対する意識の醸成を推進し、継続的かつ効果的な活動を行うために、社会貢献担当者会議（日本国内）を開催してグループ各社の社会貢献担当者を通して情報の共有と期ごとの総括を行っています。

● パイオニアグループでの分野別費用内訳 (2007年3月期)



● 国内における寄付活動と自主活動の比率 (2007年3月期)



海外での社会貢献活動

北米

アメリカの現地法人PSEでは、14年前から、「パイオニアアカデミー」と名づけた地元ロングビーチの高校生の教育支援を行っています。2005年からはロボットコンテストへの参加をサポートしており、2007年の大会では好成績をあげ、高校生たちは奨学金を手に入れました。



パイオニア
アカデミー

欧州

ベルギーの現地法人PEEでは、病気と闘う子供たちの夢を叶える団体「Make-A-Wish」に協力して、17歳の少年のDJ体験をサポートしています。パイオニアのDJ機器に実際に触れ、

国際的なDJからの指導を受けるプログラムを実施しました。



DJ体験

アジア

タイの現地法人PTMでは洪水被害のあったアユタヤ地域の住民に対して、寄附と生活物資の寄贈を行いました。



アユタヤ地域での
生活物資の寄贈

芸術文化活動、社会教育活動、国際協力・交流などパイオニアグループが行う様々な社会貢献活動は、ホームページの「企業市民」ページで紹介しています。

<http://pioneer.jp/citizen/index.html>

株主・投資家および社会

パイオニアグループは、株主・投資家をはじめ、顧客、取引先、マスコミ、地域社会などすべての利害関係者に対して適時適正な情報開示を行うことと、法令・公的規則にもとづく情報開示のみならず、グループの企業理解や投資判断に有用と考えられる情報についても積極的かつ公正に開示することを基本方針にしています。そして「情報の適正な開示」を確実に実行し、透明性の高い企業活動を目指すとともに、株主や投資家および社会からの企業理解と信頼の向上を目指しています。

お客様

パイオニアでは、さまざまなイベントやキャンペーンを実施して、お客様に体験していただく機会を設けています。定期的に行うAVセミナーでは、パイオニア商品の魅力を知っていただくとともに、新しい楽しみ方を発見していただいています。



第13回AVセミナー
(本社ショールーム)

販売店

パイオニアでは、お客様や市場を理解するためのさまざまな調査分析を行い、業務プロセスや商品開発に反映してきました。企画や意匠デザイン、設計開発、品質など製品開発にかかわる関係者がチームを組み、営業所の社員とともに販売店を訪問し、販売店やお客様が何を評価し何を望んでいるかを直接理解する取り組みを進めています。

取引先（資材調達）

パイオニアの調達本部では、資材調達の取引先と年2回の定期的な会合であるサプライヤーミーティングを開催し、環境保護や雇用・労働、安全衛生などサプライチェーン全体で取り組む行動についても取引先に協力をお願いしています。また、調達部門への要望や意見を外部調査機関を使って定期的に収集し、改善を図っています。



サプライヤーミーティング
(2006年11月)

地域社会

パイオニアグループは、責任ある「良き企業市民」として、地域社会との交流を図っています。



川越市内・山田中学校全校生徒230人に総合学習の一環として地球温暖化や事業所の環境保護への取り組みを説明
(川越事業所)

労働組合

従業員の代表であるパイオニアグループの労働組合*とは、相互信頼にもとづいた「話し合い」を基調とする良好な関係の維持向上に努めています。パイオニア労働組合とは半期に一度の定例中央労使協議会や人事の諸制度に関する協議会での話し合いだけでなく、「会社を元気にする会」や社会貢献活動などにも協働して取り組んでいます。

*パイオニア労働組合および関連労組を傘下にもつパイオニア労働組合連合会が結成されています。

組織の概要

CSRに関する社会的評価

環境保護に関する評価

- 2006年10月 パイオニアサービスネットワーク株式会社ワールドパーツセンター（静岡）では「資源リサイクルの推進」と「梱装箱購入量削減」が評価され、3R推進協議会会長賞を受賞しました。パイオニアグループとしては、3年連続の受賞となります。
- 2006年2月 パイオニアは、オフィスでのグリーン購入の促進や生産材の調達などのグローバルなグリーン購入活動の展開と、すべての製品について環境アセスメントを実施するなど、環境に配慮した製品の普及促進が認められ、第8回グリーン購入大賞・経済産業大臣賞を受賞しました。
- 2006年2月 パイオニアディスプレイプロダクツ株式会社静岡工場は、H17年度電気部門エネルギー管理優良工場として「中部経済産業局長表彰」を受けました。

サービス品質に関する評価

- 2007年6月 パイオニアサービスネットワーク株式会社は、日経ビジネスの「アフターサービス満足度ランキング」における薄型テレビ部門で3年連続「満足度1位」を獲得しました。

品質に関する評価

- 2006年5月、欧州地域統括法人（PEE）は、ヨーロッパ最大の卸団体協会であるEuronics Internationalから、製品の革新性、販売供給の実績、アフターサービス、研修など、多面的に審査され、2006年のサプライヤーアワード受賞企業に選ばれました。

その他、世界各地のOEM納入先企業から高い評価を受け、サプライヤーとしてさまざまな表彰を受けています。

従業員対応に関する評価

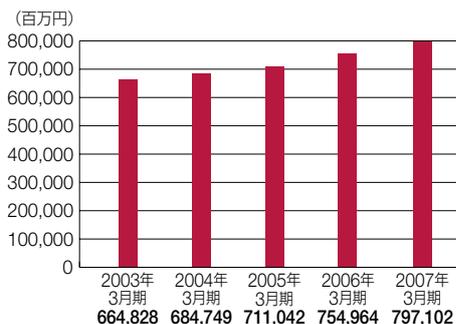
- 2007年5月 パイオニアは2005年4月から2007年3月までを対象期間として策定した行動計画の実施に対して、次世代育成支援対策推進法にもとづく認定マーク（愛称「くるみん」）を取得しました。
- 2005年9月 パイオニアは、積極的な障がい者採用活動のほか、職場定着の推進などへの取り組みが評価され、東京都障害者雇用促進協会より「障害者雇用優良事業所」として表彰されました。

情報開示に関する評価

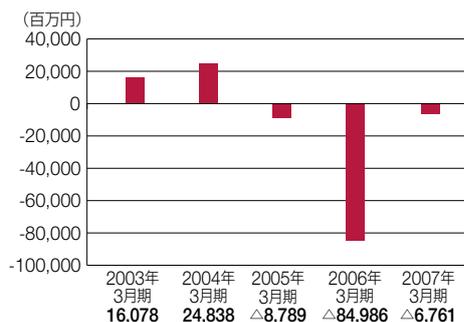
- 2007年4月 大和インベスター・リレーションズ株式会社から、「インターネットIR（投資家向け広報）サイトの優秀企業」に7年連続で選ばれました。

2007年3月期の業績（連結）

営業収入の推移



当期純利益（△損失）の推移

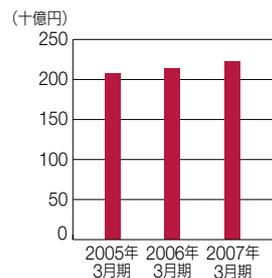


地域別営業収入の推移

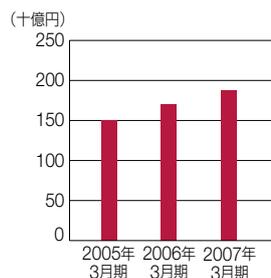
■ 日本



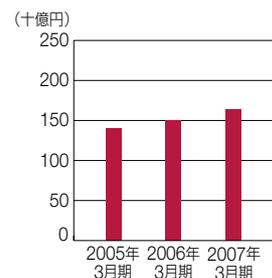
■ 北米



■ 欧州



■ その他地域



（注）地域別営業収入は、パイオニアおよび連結子会社の、外部顧客の所在地にもとづく営業収入を表しています。

パイオニアグループの主な事業

ホームエレクトロニクス

時代によりお客様のニーズが多様化する中、パイオニアは、常に、お客様のライフスタイルに合わせたホームエンタテインメントを実現するため、多彩で革新的な商品群を提供しています。

- プラズマディスプレイ
- DVDレコーダー
- DVDプレーヤー
- DVDドライブ
- ブルーレイディスクプレーヤー
- ブルーレイディスクドライブ
- オーディオシステム
- オーディオコンポーネント
- DJ機器
- 電話機
- CATV関連機器 など

カーエレクトロニクス

パイオニアは常に新しい価値をお客様に提案することを念頭に、最先端の革新技術によりAVエンタテインメントとカーナビゲーションシステムの融合を進め、モバイルエンタテインメントの可能性を大きく広げます。また、さまざまなカーエレクトロニクス製品を世界の主要自動車メーカーにも供給。その技術力は世界中で高く評価されています。

- カーナビゲーションシステム
- カーステレオ
- カーAVシステム
- カースピーカー など

特許関連

パイオニアは業界に先がけて開発したDVDレコーダーやPDP、カーナビゲーションなどに関連する特許を多数保有しており、これらの特許がパイオニアの主要事業を確かに支えています。

- 光ディスク関連特許の使用許諾

その他

パイオニアは有機ELの実用化研究に早くから着目し、世界で初めて有機ELの量産に成功、業界に先駆けて携帯電話やカーナビゲーションに実用化しました。また、さまざまな分野に応用され、好評を博しているのが、パイオニアのスピーカー技術です。携帯電話からパソコン、テレビ、他メーカーのAV機器まで、多くの採用実績を誇っています。FAシステム、有機ELディスプレイ、スピーカーデバイスなど、お客様のブランドに高い付加価値を与えるものとして高く評価されています。

- 有機ELディスプレイ
- FA機器
- スピーカーユニット
- 電子部品
- 業務用AVシステム など

会社概要

商号	パイオニア株式会社 PIONEER CORPORATION
本社	東京都目黒区目黒1丁目4番1号
創業	昭和13年1月1日
設立	昭和22年5月8日
資本金	490億4,850万3,230円
従業員数	5,071名（単独） 37,622名（連結）
関係会社	連結子会社 119社
	国内 42社
	海外 77社

Pioneer *sound.vision.soul*

本報告書に関するご意見・お問い合わせ先

パイオニア株式会社

総務部 CSR推進室

〒153-8654 東京都目黒区目黒1-4-1

TEL 03-3494-1111(代表)

パイオニアのホームページでもご意見・お問い合わせを受け付けています。
<https://www3.pioneer.co.jp/support/contact/csr.html>



この報告書は、環境に配慮し、FSC森林認証紙を使用しています。
また揮発性有機化合物を含まないNon-VOCインキを使用しており、
印刷は有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。

パイオニア株式会社はグリーン購入ネットワークの会員です。

2007年10月発行